

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄関係 沖縄返還協定批准書交換式

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43575">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43575</a>

日韓基本条約調印式当日の  
佐藤総理談話(昭和)

① 調印式の上の植名外相挨拶

東京 6月23日 40年

日韓協定調印式当日(6.22)の佐藤総理談話

### 兩國の繁榮とアジアの平和安定を増進

首相談話

本日は日韓協定の調印式が行われ、東洋の平和と繁榮の増進に重要な一歩を踏み出した。この協定は、日韓兩國の友好関係を更に強固にし、アジアの平和と安定に大きく貢献するものである。佐藤総理は、この協定が、日韓兩國の友好関係を更に強固にし、アジアの平和と安定に大きく貢献するものであると述べた。

佐藤総理は、この協定が、日韓兩國の友好関係を更に強固にし、アジアの平和と安定に大きく貢献するものであると述べた。佐藤総理は、この協定が、日韓兩國の友好関係を更に強固にし、アジアの平和と安定に大きく貢献するものであると述べた。

佐藤総理は、この協定が、日韓兩國の友好関係を更に強固にし、アジアの平和と安定に大きく貢献するものであると述べた。佐藤総理は、この協定が、日韓兩國の友好関係を更に強固にし、アジアの平和と安定に大きく貢献するものであると述べた。

最後には、十九日午後九時の開会に先立ち、本日の第一線に於ける日韓関係の改善と、  
この十層の御座るお祈り申し上げます。

### 7 日韓会談調印式における椎名外務大臣のあいさつ

昭和四十年六月二十三日

日韓会談の全面的妥結にあたり、大韓民国全権委員李東元外務部長官閣下、金東祚大使閣下とともに、佐藤総理大臣閣下および皆様方の御臨席の下に、基本関係条約その他関係協定の署名をここに滞りなく終りましたことは、私の衷心より喜びとするところであります。

思えば長い道のりでありました。一九五一年十月に開始された日韓予備会談から数えて十四年近く、一九五二年二月の第一次全面会談から数えても十三年半にわたつて、両国関係者のたゆみない努力が嘗々として続けられたにもかかわらず、交渉が容易に妥結をみなかつたことは、この会談がいかに困難なものであつたかを如実に物語つております。その意味では、長い長い努力の結晶の上に立つて本日この歴史的な調印式に臨むことができず私どもは幸運なめぐり合せにあるともいえましょう。私は、この機会に、これまで十有余年にわたる交渉の各々の時期に、諸懸案解決への努力を一つ一つ忍耐強く積み重ねて来られた日韓両国の数多くの先輩、同僚に対して深甚なる敬意と感謝の意を表したいと存じます。

有史以来、特に千有余年前われわれの祖先があなた方の祖先から高い文化を受け入れて以来、両民族が地理的歴史的に、また経済的社会的に切つても切れない深いつながりをもつて参りましたことは今さらくり返して申すまでもありません。このことを思う時、最近不幸な時期がありましたことは誠に残念であり、私は日韓関係が新時代に入るこの日に当り、あらためてこの私の気持を申し述べ、心ある日本国民すべてとともに、この気持の上に立つて、誠意をもつて両国民の間の融和協力関係の増進のために尽力する決意であることを強調したいと思ひます。

また、私は、日韓両国民の圧倒的多数が日韓国交の速やかなる正常化をひたすら望んでいることを確信しております。このたび日韓会談が妥結をみるに至つたのは、朴大統領閣下、佐藤総理大臣閣下を初め両国指導者のステーツマンシップおよび両国交渉当事者の真剣な努力の成果であることは申すまでもありませんが、私は、その背後に両国民の交渉妥結に対する強い希望があつたからこそ、あらゆる困難を乗り越り遂に今日の日を迎えることができたのであると信じて疑いません。そして、両国民の友好親善関係の緊密化に伴つて、両国関係は今後発展の一路を辿り、相接して國をなす仲のよい友邦として、相携えてアジアひいては世界の平和、人類の福祉に限りなく貢献することができると確信する次第であります。

記念すべきこの日、韓国の美しい山河に初夏の気が満ちあふれ、去る二月私がお訪ねした時にはまだ冬だつたソウルの街も粧いを新たに、南山の緑は濃く、漢江の水は澄んでいることでしょう。そして、私は、今日私どもが取り交した固い契りが両国民の今後の一層の繁栄に大きく役立ち、歴史的な出来事となることを信じております。このように考える時、私は、皆様もそうであると思ひますが、はかりしれない感激に包まれるのであります。日韓国交史上画期的な意義を有する調印式に際し、両国民の末長い繁栄を祈つて、私の御挨拶を終ります。

